

平成24年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	佐賀県		市町村類型	Ⅱ-1	指定団体等の指定状況		区分		平成24年度(千円)	平成23年度(千円)	区分		平成24年度(千円・%)	平成23年度(千円・%)			
					財政健全化等	×	歳入総額	22,450,692			23,246,950	実質収支比率			2.2	3.1	
市町村名	伊万里市		地方交付税種地	1-2	財源超過	×	歳出総額	22,130,572	22,819,062	経常収支比率	94.0	84.5	(105.9)	(92.2)			
					首都	×	歳入歳出差引	320,120	427,888	(※1)							
					近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	25,924	15,294	標準財政規模	13,454,233	13,225,744					
					中部	×	実質収支	294,196	412,594	財政力指数	0.58	0.60					
人口	22年国調(人)	57,161	産業構造(※5)		過疎	×	単年度収支	-262,420	105,799	公債費負担比率	15.0	14.1					
	17年国調(人)	58,190			山振	×	積立金	276,738	280,210	健全化判断比率							
	増減率(%)	-1.8			低開発	×	積立金取崩し額	320,000	-	実質赤字比率							
住民基本台帳人口(※7)	25.03.31(人)	57,386	第1次	22年国調	2,793	17年国調	3,703	低開発	×	積立金取崩し額	320,000						
	うち日本人(人)	57,038		22年国調	2,793	17年国調	3,703	指数表選定	○	実質単年度収支	-305,682	386,009	18.9	19.2			
	24.03.31(人)	57,440	第2次	22年国調	10.1	17年国調	12.5			基準財政収入額	6,246,588	5,681,094	資金不足比率(※4)				
	うち日本人(人)	57,440		22年国調	8,959	17年国調	9,401			基準財政需要額	10,561,329	10,354,468					
	増減率(%)	-0.1		22年国調	32.3	17年国調	31.7			標準税収入額等	8,048,260	7,272,739					
	うち日本人(%)	-0.7	22年国調	15,979	17年国調	16,550			経常経費充当一般財源等	12,916,582	12,254,893						
面積(km ²)	255.02	第3次	22年国調	57.6	17年国調	55.7			歳入一般財源等	15,705,982	16,319,513						
人口密度(人/km ²)	224																
世帯数(世帯)	19,614																
職員状況																	
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	20,667,772	20,852,612	うち公的資金	17,018,926	17,009,947				
	市区町村長	1	9,460	一般職員	478	1,521,474	3,183	債務負担行為額(支出予定額)	3,252,745	2,516,785							
	副市区町村長	1	7,550	うち消防職員	86	271,244	3,154	収益事業収入	-	-							
	教育長	1	6,780	うち技能労務職員	44	151,536	3,444	土地開発基金現在高	608,000	608,000							
	議会議長	1	4,860	教育公務員	6	24,550	4,092	積立金現在高	700,965	744,227							
	議会副議長	1	4,350	臨時職員	-	-	-	財政調整基金	700,965	744,227							
	議会議員	22	4,070	合計	484	1,546,024	3,194	減債基金	618,580	354,686							
				ラスバイレス指数(※6)	105.8	(97.8)		その他特定目的基金	1,512,374	1,472,423							
	一般会計等の一覧																
	項番	会計名	事業会計の一覧	項番	会計名	公営企業(法適)の一覧	項番	会計名	公営企業(法非適)の一覧	項番	会計名	関係する一部事務組合等一覧	項番	組合等名	地方公社・第三セクター等一覧	項番	団体名
(1)	一般会計	(2)	伊万里市国民健康保険特別会計	(6)	伊万里市水道事業特別会計	(8)	伊万里市公共下水道事業特別会計	(11)	伊万里・有田地区衛生組合	(21)	伊万里市土地開発公社	○					
		(3)	伊万里市介護保険特別会計	(7)	伊万里市工業用水道事業特別会計	(9)	伊万里市農業集落排水事業特別会計	(12)	伊万里・有田地区医療福祉組合(一般会計)	(22)	伊万里情報センター株式会社						
		(4)	伊万里市後期高齢者医療特別会計			(10)	伊万里市立花台地開発事業特別会計	(13)	伊万里・有田地区医療福祉組合(特別養護老人ホーム)								
		(5)	伊万里市市営駐車場特別会計					(14)	伊万里・有田地区医療福祉組合(病院事業会計)								
								(15)	佐賀県後期高齢者医療広域連合(一般会計)								
								(16)	佐賀県後期高齢者医療広域連合(後期高齢者特別会計)								
								(17)	佐賀県西部広域環境組合								
								(18)	有田磁石場組合								
								(19)	佐賀県市町総合事務組合(一般会計)								
								(20)	佐賀県市町総合事務組合(特別会計)								

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補償(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補償等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、平成22年国調は分類不能の産業を除き、平成17年国調は分類不能の産業を含んでいる。
 ※6: ラスバイレス指数の()内の数値は、国家公務員の時限的な(2年間)給与改定特例法による措置が無いとした場合の値である。
 ※7: 住民基本台帳法の改正により、平成25年3月31日現在の住民基本台帳登録人口については、外国人住民を含む。

(1) 普通会計の状況（市町村）

歳入の状況（単位 千円・％）				地方税の状況（単位 千円・％）				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分
地方税	6,863,996	30.6	6,863,996	56.3	普通税	6,862,532	100.0	60,916
地方譲与税	307,839	1.4	307,839	2.5	法定普通税	6,862,532	100.0	60,916
利子割交付金	10,186	0.0	10,186	0.1	市町村民税	2,447,140	35.7	60,916
配当割交付金	7,522	0.0	7,522	0.1	個人均等割	78,680	1.1	-
株式等譲渡所得割交付金	2,035	0.0	2,035	0.0	所得割	1,854,487	27.0	-
地方消費税交付金	532,270	2.4	532,270	4.4	法人均等割	141,124	2.1	-
ゴルフ場利用税交付金	-	-	-	-	法人税割	372,849	5.4	60,916
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	固定資産税	3,822,904	55.7	-
自動車取得税交付金	68,034	0.3	68,034	0.6	うち純固定資産税	3,784,750	55.1	-
軽油引取税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	151,399	2.2	-
地方特例交付金	19,543	0.1	19,543	0.2	市町村たばこ税	441,089	6.4	-
地方交付税	5,277,690	23.5	4,345,534	35.6	鉱産税	-	-	-
普通交付税	4,345,534	19.4	4,345,534	35.6	特別土地保有税	-	-	-
特別交付税	932,149	4.2	-	-	法定外普通税	-	-	-
震災復興特別交付税	7	0.0	-	-	目的税	1,464	0.0	-
(一般財源計)	13,089,115	58.3	12,156,959	99.6	法定目的税	1,464	0.0	-
交通安全対策特別交付金	12,763	0.1	12,763	0.1	入湯税	1,464	0.0	-
分担金・負担金	376,251	1.7	1	0.0	事業所税	-	-	-
使用料	314,706	1.4	17,565	0.1	都市計画税	-	-	-
手数料	139,557	0.6	-	-	水利地益税等	-	-	-
国庫支出金	2,998,893	13.4	-	-	法定外目的税	-	-	-
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-	旧法による税	-	-	-
都道府県支出金	2,090,854	9.3	-	-	合計	6,863,996	100.0	60,916
財産収入	41,288	0.2	8,032	0.1				
寄附金	8,610	0.0	-	-				
繰入金	356,364	1.6	-	-				
繰越金	571,910	2.5	-	-				
諸収入	541,481	2.4	6,610	0.1				
地方債	1,908,900	8.5	-	-				
うち減収補填債(特例分)	474,600	2.1	-	-				
うち臨時財政対策債	1,060,400	4.7	-	-				
歳入合計	22,450,692	100.0	12,201,930	100.0				

区分	平成24年度	平成23年度
徴収率 現・計	98.4	92.6
(%) 年・計	98.2	93.2
	98.4	91.5
	98.1	90.4

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	3,516,744	実質収支	-729,816
下水道	770,769	再差引収支	-851,480
工業用水道	328,905	加入世帯数(世帯)	8,589
病院	191,636	被保険者数(人)	14,918
上水道	120,946	被保険者	保険税(料)収入額
国民健康保険	450,369	1人当り	国庫支出金
その他	1,654,119		保険給付費
			296

歳出の状況（単位 千円・％）				
目的別歳出の状況（単位 千円・％）				
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等
議会費	290,992	1.3	-	290,992
総務費	2,936,240	13.3	44,203	2,699,096
民生費	8,529,575	38.5	71,725	4,039,466
衛生費	1,524,381	6.9	111,817	1,317,315
労働費	193,397	0.9	-	1,027
農林水産業費	1,048,662	4.7	199,178	640,414
商工費	907,875	4.1	24,481	632,708
土木費	1,618,760	7.3	584,122	1,072,641
消防費	769,915	3.5	13,604	737,378
教育費	1,774,070	8.0	346,992	1,600,582
災害復旧費	131,017	0.6	-	3,281
公債費	2,405,688	10.9	-	2,350,962
諸支出費	-	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-
歳出合計	22,130,572	100.0	1,396,122	15,385,862

性質別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	12,453,615	56.3	8,223,065	7,994,973	58.2
人件費	4,610,151	20.8	4,273,572	4,052,058	29.5
うち職員給	2,786,735	12.6	2,522,956	-	-
扶助費	5,437,812	24.6	1,598,567	1,591,989	11.6
公債費	2,405,682	10.9	2,350,926	2,350,926	17.1
元利償還金	2,405,586	10.9	2,350,860	2,350,860	17.1
内訳	2,093,740	9.5	2,039,074	2,039,074	14.8
うち元金	311,846	1.4	311,786	311,786	2.3
うち利子	66	0.0	66	66	0.0
一時借入金利子	8,149,818	36.8	6,654,233	4,921,609	35.8
その他の経費	2,409,287	10.9	1,819,555	1,526,970	11.1
物件費	111,700	0.5	102,244	99,641	0.7
維持補修費	1,607,171	7.3	1,358,417	801,779	5.8
補助費等	352,864	1.6	352,864	315,889	2.3
うち一部事務組合負担金	2,875,257	13.0	2,573,564	2,444,469	17.8
繰入金	597,825	2.7	590,435	-	-
積立金	548,578	2.5	210,018	48,750	0.4
投資・出資金・貸付金	-	-	-	-	-
前年度繰上充用金	1,527,139	6.9	508,564	-	-
投資的経費計	28,570	0.1	13,931	-	-
うち人件費	1,396,122	6.3	505,283	-	-
普通建設事業費	507,402	2.3	22,460	-	-
うち補助	810,972	3.7	474,826	-	-
うち単独	131,017	0.6	3,281	-	-
災害復旧事業費	-	-	-	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	22,130,572	100.0	15,385,862	-	-

(注釈)
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

平成24年度 佐賀県伊万里市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	22,471	22,159	312	286	356	20,668	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							
296							
297							
298							

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	57,386	人(H25.3.31現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	57,038	人(H25.3.31現在)	実質公債費比率	-	%
面積	255.02	km ²	実質負担比率	18.9	%
入総額	22,450,692	千円	将来負担比率	166.0	%
出総額	22,130,572	千円			
実収	294,196	千円	市町村類型	H20 II-1 H21 II-1 H22 II-1	
標準財政規模	13,454,233	千円	(年度毎)	H23 II-1 H24 II-1	
地方債現在高	20,667,772	千円			

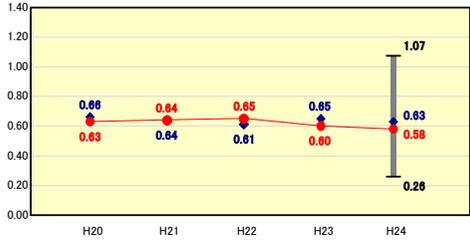


※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※平成25年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※類似団体平均値は、充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体を含めた加重平均であるため、最小値を下回ることがある。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※住民基本台帳法の改正により、平成25年3月31日現在の住民基本台帳登録人口については、外国人住民を含む。

財政力

財政力指数 [0.58]

類似団体内順位 112/197 全国平均 0.49 佐賀県平均 0.51

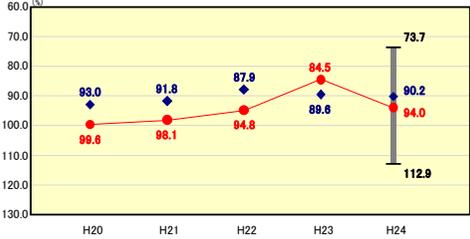


財政力指数の分析欄
 平成20年度から22年度の3年間は連続した伸びを見せていたが、平成24年度は0.58と前年度(0.60)より0.02ポイント減となった。今後景気低迷による個人・法人関係の減収などから類似団体平均を下回る可能性もあるため、人件費の削減や緊急に必要な事業を峻別し、投資的経費を抑制する等、歳出の徹底的な見直しを実施するとともに、税收の徴収率向上などによる歳入確保に努める。

財政構造の弾力性

経常収支比率 [94.0%]

類似団体内順位 157/197 全国平均 90.7 佐賀県平均 89.3

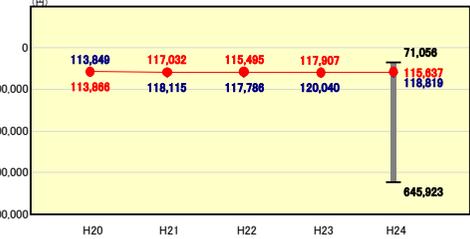


経常収支比率の分析欄
 扶助費及び他会計(工業用水道事業特別会計、公共下水道事業特別会計、国民健康保険特別会計・介護保険特別会計・後期高齢者医療特別会計)への繰出金の増加とともに、税收(法人市民税)の減少と退職者数の増加により、94.0%と類似団体平均を上回っている。
 扶助費については、生活保護の資格審査等の適正化による抑制を図るとともに、医療・介護給付費などの適正化を図り、他会計への繰出金の抑制に努める。また、今後も事務事業の見直しを継続し、経常経費の削減に努める。

人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [115,637円]

類似団体内順位 120/197 全国平均 116,454 佐賀県平均 113,443

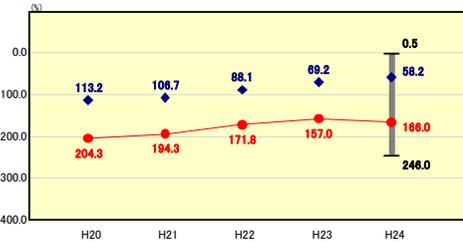


人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 人件費、物件費及び維持補修費の合計額の人口1人当たりの金額が全国平均や佐賀県平均を上回っているのは、主に人件費が要因となっている。これは市の面積が広大で、類似団体と比較し、支所出張所が多いことや、消防事務について広域ではなく単独で行っていること等が要因となっている。今後は、民間でも実施可能な部分については、指定管理者制度の導入などにより委託化を進め、コストの低減を図っていく方針である。

将来負担の状況

将来負担比率 [166.0%]

類似団体内順位 188/197 全国平均 60.0 佐賀県平均 35.6

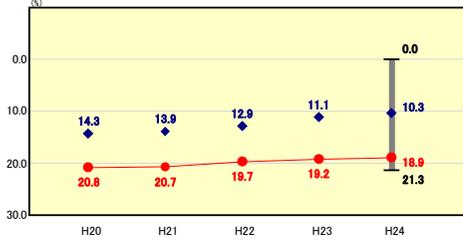


将来負担比率の分析欄
 前年度に引き続き類似団体の平均を上回る166.0%となっている。主な要因としては、第4工業用水道事業や公共下水道事業等の公営企業債繰出額が大きいために、今後、企業会計において適正な受益負担の確保や経営の合理化、効率化を図り、一般会計からの繰出が標準財政規模(臨時財政対策債を含む)の15%以下となるよう、各会計の経営健全化に努める。

公債費負担の状況

実質公債費比率 [18.9%]

類似団体内順位 195/197 全国平均 9.2 佐賀県平均 11.7

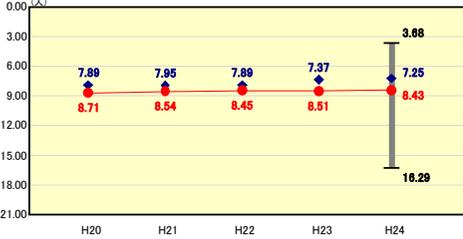


実質公債費比率の分析欄
 類似団体の平均を上回っている要因としては、第4工業用水道事業や公共下水道事業の起債償還に係る繰出金が多いためである。今後、各企業会計の経営の合理化、効率化による経営健全化により繰出金の抑制を図る必要がある。
 また、新規発行については可能な限り抑制しているため近年低下傾向であるが、引続き第3次伊万里市財政基盤安定化計画に基づき、単年度の地方債借入額について、標準財政規模(臨時財政対策債を含む)の10%以下となるよう、地方債借入れの抑制に努め、公債費負担の適正化を図る。

定員管理の状況

人口千人当たり職員数 [8.43人]

類似団体内順位 152/197 全国平均 7.00 佐賀県平均 7.40

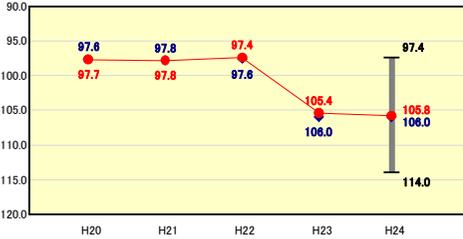


人口千人当たり職員数の分析欄
 市域が広く学校や出張所等の出先機関が多いことや、消防事務について広域ではなく単独で行っているために職員数が類似団体平均と比較して多いことが主な要因である。

給与水準(国との比較)

ラスパイレス指数 [105.8]

類似団体内順位 90/197 全国市平均 106.6 全国町村村平均 103.2



ラスパイレス指数の分析欄
 退職者不補充等の行財政改革により年齢構成上、高齢層の職員の割合が高いものの、類似団体の平均より低い数値となっている。今後も市の財政状況を勘案しながら、人件費の抑制に努める必要がある。

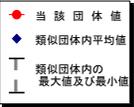
(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成24年度

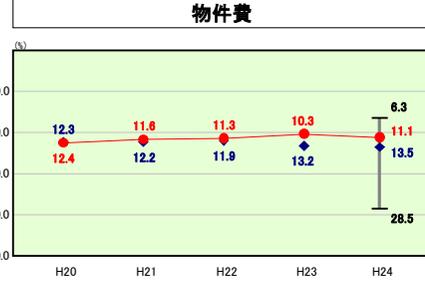
佐賀県伊万里市

経常収支比率の分析

人口	57,386 人 (H25.3.31現在)	実収支比率	- %
うち日本人	57,038 人 (H25.3.31現在)	実赤字比率	- %
面積	255.02 km ²	実公債比率	18.9 %
総収入	22,450,692 千円	実負担比率	166.0 %
総支出	22,130,572 千円		
実収支	294,196 千円		
標準財政規模	13,454,233 千円		
地方債現在高	20,667,772 千円		

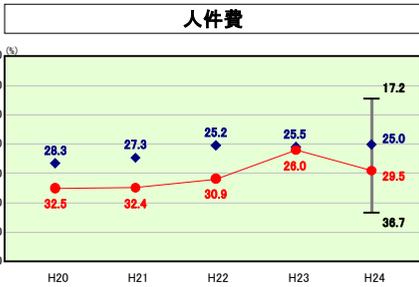


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 住民基本台帳法の改正により、平成25年3月31日現在の住民基本台帳登録人口については、外国人住民を含む。



類似団体内順位 39/197 全国平均 13.3 佐賀県平均 11.5

物件費の分析欄
 物件費に係る経常収支比率は、類似団体平均を若干下回っている。今後は学校などの公共施設の統廃合を含めた適正配置を行うことで維持管理経費等を削減していく必要がある。



類似団体内順位 173/197 全国平均 24.8 佐賀県平均 24.8

人件費の分析欄
 人件費に係るものは、平成24年度において29.5%と類似団体平均と比べて高い水準にある。これは市域が広く学校や出張所等の出先機関が多いことや、消防事務について広域ではなく単独で行っているために職員数が類似団体平均と比較して多いことが主な要因であり、行政サービスの提供方法の差異によるものと言える。



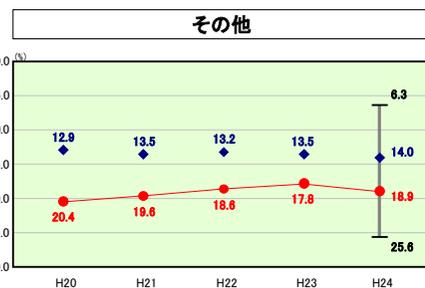
類似団体内順位 37/197 全国平均 10.1 佐賀県平均 10.7

補助費等の分析欄
 補助費等については、既に目的を終えたもの、効果の薄いもの、既得権化しているものについて、見直しを行った結果、補助費等に係る経常収支比率は類似団体平均を4.6ポイント下回っている。今後も補助率の見直しや金額の削減等について検討を行っていく。



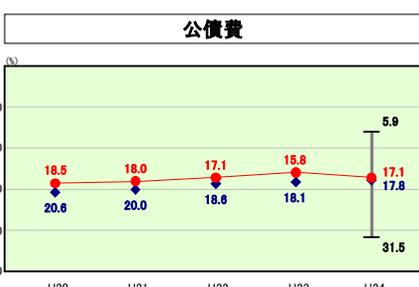
類似団体内順位 158/197 全国平均 11.2 佐賀県平均 9.4

扶助費の分析欄
 扶助費に係る経常収支比率が類似団体平均を上回り、かつ上昇傾向にある要因として、生活保護費の額が急激に膨らんでいることや障害者自立支援給付費の増加などが挙げられる。資格審査等の適正化、頻回受診等の是正指導等を進めていくことで、上昇傾向に歯止めをかけるよう努める。



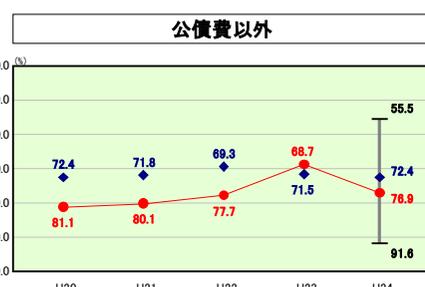
類似団体内順位 183/197 全国平均 12.5 佐賀県平均 14.1

その他の分析欄
 その他に係る経常収支比率が類似団体平均を上回っているのは、繰出金の増加が主な要因である。主なものは工業用水道事業特別会計、公共下水道事業特別会計、国民健康保険事業会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計への繰出しとなっている。今後は、使用料や保険料(保険税)などの見直し等により、各会計の経営健全化を行うことで繰出金の抑制に努める。



類似団体内順位 92/197 全国平均 18.8 佐賀県平均 18.8

公債費の分析欄
 一般会計においては単年度の地方債借入額について、標準財政規模(臨時財政対策債を含む)の10%以下となるよう地方債借入れの抑制に努めているが、平成24年度は国の経済対策に伴い地方債発行件数が増え、前年度と比較すると1.3ポイント上昇している。今後は広域ごみ処理施設建設や小学校建設、浸水対策事業などの大型事業があるため、引続き公債費負担適正化計画等に従って極力起債を抑えた財政運営に努める。



類似団体内順位 150/197 全国平均 71.9 佐賀県平均 70.5

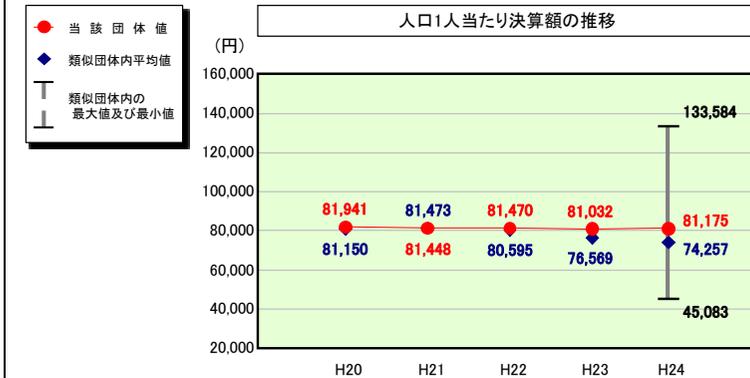
公債費以外の分析欄
 交際費以外に係る経常収支比率が類似団体平均を4.5ポイント上回っている。その原因は、人件費、扶助費、繰出金によるものである。各分析にも掲げているとおり負担軽減へ向けてなお一層抑制に努める。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成24年度

佐賀県伊万里市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

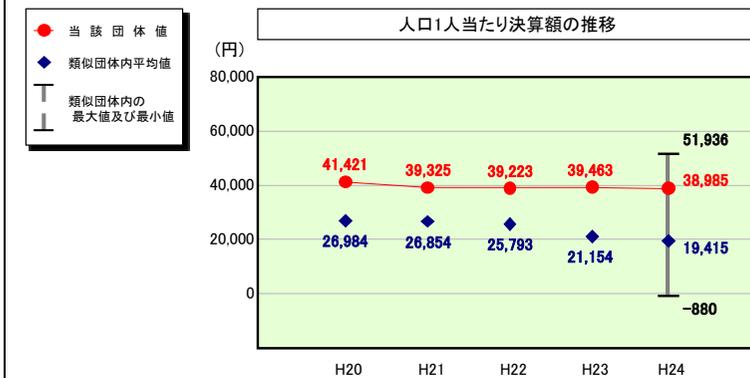
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	4,610,151	80,336	66,779	20.3
賃金(物件費)	328,109	5,718	4,457	28.3
一部事務組合負担金(補助費等)	9,355	163	5,662	▲97.1
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	38,021	663	893	▲25.8
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	4	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	167,836	2,925	2,920	0.2
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	28,570	498	1,451	▲65.7
▲退職金	▲523,748	▲9,127	▲7,909	15.4
合計	4,658,294	81,175	74,257	9.3

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	8.43	7.25	1.18
ラスパイレス指数	105.8	106.0	▲0.2

(注) 住民基本台帳法の改正により、平成25年3月31日現在の住民基本台帳登録人口については、外国人住民を含む。(公債費及び普通建設事業費についても同様)

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

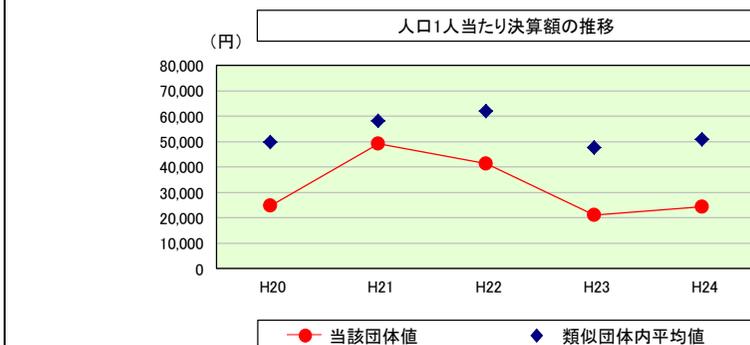


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	2,405,652	41,921	43,897	▲4.5
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	16	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	37	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	1,166,399	20,325	11,989	69.5
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	102,486	1,786	2,516	▲29.0
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	181,172	3,157	1,568	101.3
一時借入金利息 (同一団体における会計間の現金運用に係る利息は除く)	66	1	8	▲87.5
▲特定財源の額	▲54,726	▲954	▲5,564	▲82.9
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲1,563,844	▲27,251	▲35,053	▲22.3
合計	2,237,205	38,985	19,415	100.8

※平成25年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

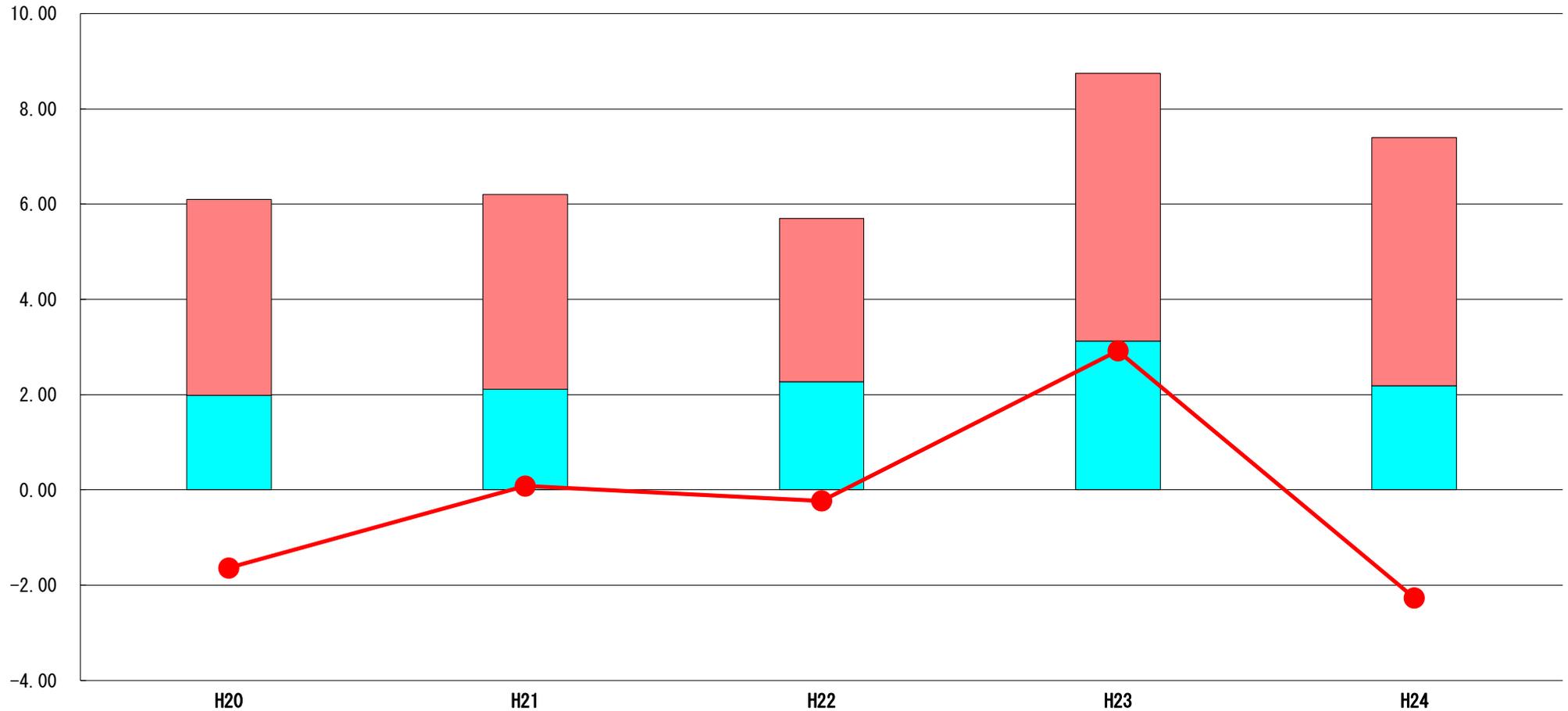
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H20	1,438,758	24,672	▲19.9	49,774	2.8	▲22.7
うち単独分	692,915	11,882	▲6.8	26,739	▲0.7	▲6.1
H21	2,849,342	49,069	98.9	58,009	16.5	82.4
うち単独分	1,206,522	20,778	74.9	32,190	20.4	54.5
H22	2,381,770	41,240	▲16.0	61,882	6.7	▲22.7
うち単独分	884,540	15,316	▲26.3	32,175	0.0	▲26.3
H23	1,212,991	21,118	▲48.8	47,569	▲23.1	▲25.7
うち単独分	708,969	12,343	▲19.4	26,255	▲18.4	▲1.0
H24	1,396,122	24,329	15.2	50,880	7.0	8.2
うち単独分	810,972	14,132	14.5	26,879	2.4	12.1
過去5年間平均	1,855,797	32,086	5.9	53,623	2.0	3.9
うち単独分	860,784	14,890	7.4	28,848	0.7	6.7

(5) 実質収支比率等に係る経年分析 (市町村)

平成24年度

佐賀県伊万里市

標準財政規模比 (%)



標準財政規模比 (%)

区分	年度	H20	H21	H22	H23	H24
 財政調整基金残高		4.11	4.09	3.43	5.63	5.21
 実質収支額		1.99	2.11	2.27	3.12	2.19
 実質単年度収支		▲ 1.64	0.08	▲ 0.23	2.92	▲ 2.27

分析欄

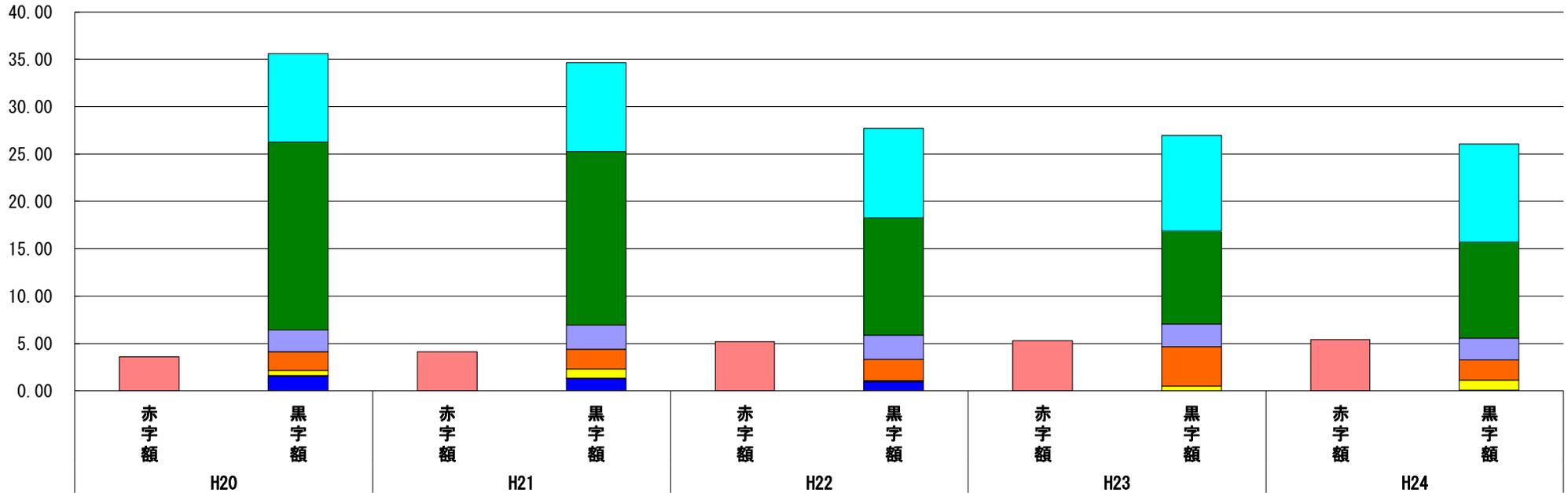
平成20年度以降、平成23年度以外は交付税の減額の影響により積立てた基金を取崩して財政運営を行っている状況となっている。
 今後は、普通交付税を含めた一般財源の確保が厳しい見込みであり、財政調整基金等の各種基金の取崩しによる財政運営となるため、税収の確保に努めるとともに一層の歳出削減を行うことで基金残高の確保に努める。

(6) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成24年度

佐賀県伊万里市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H20	H21	H22	H23	H24
伊万里市国民健康保険特別会計		▲ 3.60	▲ 4.13	▲ 5.22	▲ 5.28	▲ 5.42
伊万里市工業用水道事業特別会計		9.35	9.40	9.42	10.09	10.30
伊万里市水道事業特別会計		19.85	18.30	12.40	9.80	10.14
伊万里市立花台地開発事業特別会計		2.29	2.56	2.56	2.42	2.30
一般会計		1.98	2.08	2.25	4.18	2.12
伊万里市介護保険特別会計		0.54	0.96	0.03	0.44	1.10
伊万里市市営駐車場特別会計		0.00	0.02	0.02	0.03	0.06
伊万里市後期高齢者医療特別会計		0.05	0.02	0.02	0.01	0.01
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		1.55	1.31	1.01	0.00	0.00

分析欄

連結実質赤字比率については、国民健康保険特別会計以外において黒字であり赤字比率はない。国民健康保険特別会計については、平成19年度、平成23年度に税率の改正を行ったが景気低迷による課税総所得の減少から収入額が伸び悩んでおり累積赤字を解消するまでには至っていない。
 今後は、保険税の適正な賦課と収納率の向上に努め、レセプト点検の強化等により医療費の適正化を図り累積赤字の解消に努める。

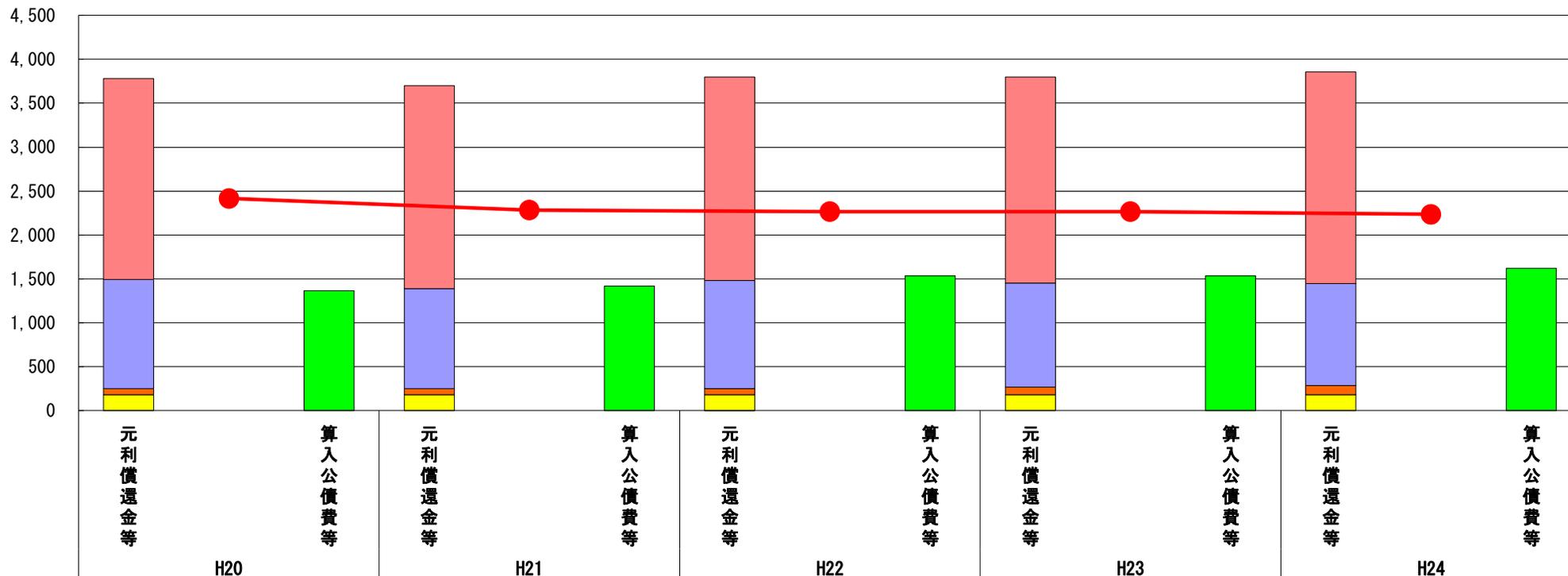
※平成25年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出してない団体については、グラフを表記しない。

(7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成24年度

佐賀県伊万里市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H20	H21	H22	H23	H24
元利償還金等(A)	元利償還金		2,287	2,316	2,319	2,347	2,406
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		1,243	1,135	1,229	1,183	1,166
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		70	70	70	90	102
	債務負担行為に基づく支出額		180	181	182	180	181
	一時借入金の利子		-	0	1	0	0
算入公債費等(B)	算入公債費等		1,364	1,419	1,535	1,533	1,620
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		2,416	2,283	2,266	2,267	2,235

分析欄

実質公債費比率は平成24年度で19.2%となっており、年々減少傾向にある。その要因として、元利償還金は増加傾向にあるものの、財政運営に有利な地方債の発行により普通交付税に措置される算入公債費等も増加しており、実質公債費比率の分子となる額は減少傾向にある。

今後は、広域ごみ処理施設建設や小学校建設などの大型事業があることなどから、引き続き公債費負担適正化計画に従って極力起債を抑えた財政運営を行っていくことが重要である。

起債の新規発行については可能な限り抑制（標準財政規模規模の10%以下）し、公債費の平準化を図りながら残高の圧縮に努める。

※平成20年度決算の元利償還金は特定財源の額を控除しており、満期一括償還地方債に係る年度割相当額は減債基金積立不足算定額を含んでいる。

※平成21年度決算以降の算入公債費等は特定財源の額を含んでいる。

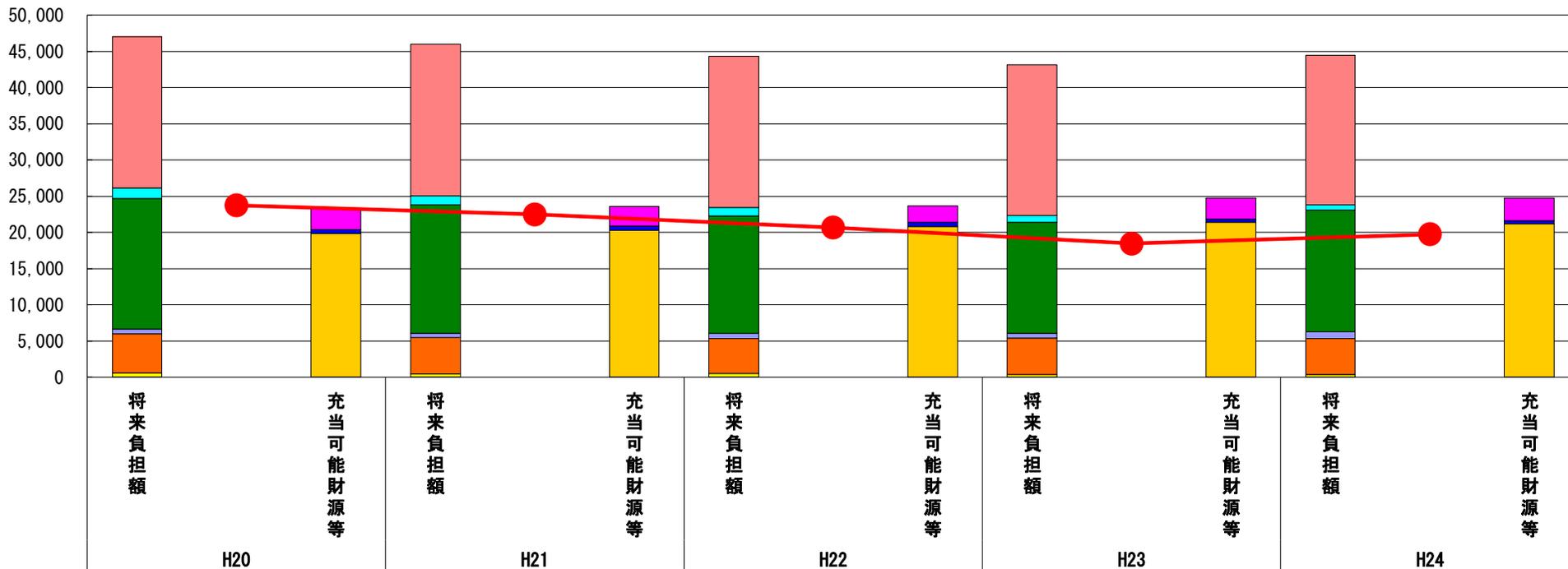
※平成25年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(8) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成24年度

佐賀県伊万里市

(百万円)



分子の構造		年度	H20	H21	H22	H23	H24
将来負担額 (A)	一般会計に係る地方債の現在高		20,879	20,955	20,895	20,853	20,668
	債務負担行為に基づく支出予定額		1,481	1,304	1,127	950	773
	公営企業債等繰入見込額		18,021	17,697	16,236	15,281	16,769
	組合等負担等見込額		679	586	707	660	969
	退職手当負担見込額		5,408	5,047	4,827	5,026	4,931
	設立法人等の負債額等負担見込額		567	440	530	400	370
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		2,928	2,668	2,272	2,885	3,139
	充当可能特定歳入		539	568	554	488	425
	基準財政需要額算入見込額		19,831	20,313	20,806	21,357	21,168
(A) - (B)	将来負担比率の分子		23,737	22,480	20,688	18,440	19,747

分析欄

将来負担比率については、近年、減少傾向にあったが、平成24年度は、166%となっている。これは、基準財政需要額算入見込額の減少や、公営企業債等繰入見込額などの将来負担額の増加によるものである。

今後は、広域ごみ処理施設建設や小学校建設などの大型事業があることなどから、引き続き公債費負担適正化計画に従って極力起債を抑えた財政運営を行っていくことが重要であるため、起債の新規発行については可能な限り抑制(標準財政規模の10%以下)し、公債費の平準化を図りながら残高の圧縮を行う。また、企業会計における適正な受益者負担の確保や経営の合理化、効率化を図り、一般会計からの繰入が標準財政規模(臨時財政対策債を含む)の15%以下となるよう、各会計の経営健全化に努める。

※平成25年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。